

貧困世帯の子ども支援

川崎医福大サークル

川崎医療福祉大（倉敷市松島）の学生サークルが、貧困世帯の子どもらをサポートする活動を展開している。「倉敷トワイライトホーム」と名付け、市内の民家を借り、仕事などで保護者がいない夜の居場所として無償で提供。ボランティアの学生が世話をしているが、運営資金が課題となっており、インターネットの「クラウドファンディング」で29日まで出資を募っている。（石井聡）



夕食で子どもたちとテーブルを囲む学生ら

夕暮れから、学校帰りの小中学生が集まってきた。2月中旬、倉敷トワイライトホームが拠点になっている一軒家。学生が見守る中、子どもたちは宿題をしたり、遊んだり。この日の夕食はチャーハンにサラダ、スープ。みんなでテーブルを囲み、手を合わせて「いただきます」。学校での出来事や好きな漫画の話題など食事をしながら会話が弾む。家族のだんらんのようなひとときを過ごした子どもたちは午後8時半すぎ、学生に付き添われて帰宅した。

倉敷トワイライトホームは2015年6月に始まった。社会福祉士を目指している川崎医福大生が、京都市や大阪市での事例を知り感銘を受けたのがきっかけ。同大の直島克樹講師（社会福祉学）や地元の社会福祉協議会などの協力を得て、「子ども支援サークルにっこにこ」を立ち上げた。学生約40人が活動。経済的理由で保護者が夜間に働いているケースなどを対象に、倉敷市内の小中学生を受け入れる。現在は週2回

夜間の居場所、食事無償提供 運営継続へ資金募集

開き、数人が通う。サークル代表の3年紀奈那さん（20）は「子どもたちの表情は、ここに通うにつれ、明るくなってきたと思う。大切な居場所になっているようにうれしい」と言う。

食事を含め利用は無料としているが、家賃、光熱費などで年間100万円程度掛かるという。15年度については、地域の課題解決に向けた取り組みを支援する岡山県の事業で200万円（最大）の助成が得られたものの、長期的に継続していく資金を確保するため、ネット上で多数の賛同者に支援を呼び掛けられるクラウドファンディングの活用を決めた。

厚生労働省の調査では、平均的な所得の半分（2012年は122万円）を下回る世帯で暮らす18歳未満の割合は12年時点で16・3%と過去最悪を更新した。「貧困世帯の子どもらを地域で見守り、孤立させない体制づくり」に役買っている。活動に協力してほしい」と直島講師。目標額は60万円。専用ホームページ（<https://motion-gallery.net/projects/hassey-net/projects/hassey-net>）で千円から受け付けている。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。